

Genius English Communication I

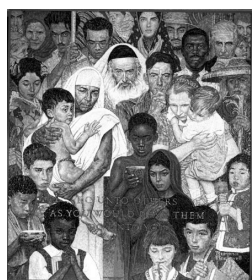
教科書をきっかけに「考えさせる」授業のヒント

関 万里子



学習指導要領の改訂に伴い、Genius の教科書も大きく様変わりし、以前と比べてよりコミュニケーション活動が増えた。コミュニケーション活動は、現行のどの英語 I の教科書にも含まれているが、正直なことを言えばそのような活動は授業であまり重視されていない。そこで今回は Lesson 1 の“A Village of One Hundred”に掲載されている活動を通して、いくつか教科書の活用法をご紹介できたらと思う。

1. Warm-up について



タイトルページにある挿絵はその課についての何かしらの情報を与えてくれる。その絵から本文の内容を推測することもできる。Lesson 1 には Norman Rockwell の

“The Golden Rules” が掲載されている。

① The Golden Rules について

まずは絵を見せて、以下の 3 つの質問をする。

Q1. What can you see in this picture?

Q2. What are the words written in the picture?

Q3. Guess the meaning of its message.

この絵には老若男女、多様な人種、宗教を持った人々が描かれている。Q1 では生徒たちからできるだけたくさんの意見を出させたい。出てこなければ、絵の人物を一人ずつ取り上げて考えさせる。次の Q2 であるが、絵をよく見ると金色の文字で “Do unto Others as You Would Have Them Do unto You” と書いてある。これがこの

絵のメッセージであり、その意味を考えさせるのが Q3 であるが、中学校を卒業したばかりの高校 1 年生がこの意味を理解するのは少し難しいかもしれない。まずは生徒に推測をさせ、それでも出てこない場合は選択肢を用意して選ばせるのも良い。このような導入を行った後でリスニング活動につなげる。

② リスニング活動について

Jun と Emily がある絵 (The Golden Rules) について話している対話であり、そのことを生徒に伝えると先ほどの活動とのつながりが出てくる。教科書に選択肢が載っているので、リスニングの前に目を通しておくと、何が質問されているのかある程度推測できるので、リスニング活動がスムーズにできる。さらに発展的な活動として、もう一度 CD を聞かせて Extra Questions を聞くのもよいだろう。

③ 本文への導入

結局のところ、この絵が最初のページに掲載されているのはなぜだろうか。最初の活動で世界には老若男女様々な人種がいて、それぞれの宗教や生活習慣も違うということが分かった。それがもし「ひとつの村に 100 人に凝縮されたらどうなるのか」を生徒に伝え、本文へと入っていく。

2. 本文について

この後の Communication Activities とのつながりも考えて、パート毎にキーワードを見つけないが読みすすめる。特に各パートで多くの数字が出てくるので、それが意味するところを正確に理解させる必要がある。さらに各パートを読み終わ

ったら小見出し（英語でも日本語でも）をつけさせる。Part 1 では「100人の村」が「自然」「言語」「文化や価値観」において多様であることを読み取り、Part 2 で村の「人数構成」を知った後に「教育」「健康」、Part 3 で「環境」「水」、Part 4 で「貧富の差」「紛争」についての問題があることを把握した上で、最後に「この村をよくするには何ができるか」を考えさせる流れである。こうすると後の Summary も取り組みやすい。

3. Discussion について

Warm-up と本文で学んだことを通して自分たちは何をすべきなのかを考えるのが Discussion 活動である。教科書に掲載されている2つの質問に答えるだけではもったいないので、次のようにもう少しこの活動を膨らませていきたい。

- ①教科書をもう一度読ませ、一番驚いたところにアンダーラインを引かせる。
- ②その理由を考えさせる。
- ③ペアで発表させる。
(ここまでの教科書を基にした活動)
- ④生徒を「教育」「健康」「環境」「水」「貧富の差」「戦争」のグループに分ける。
- ⑤テーマ別に解決策を議論させる。
- ⑥クラス全体に発表する。

普段、我々は語彙や文法の習得や理解のためにたくさんの時間を費やすが、細部に目が行き過ぎてしまって結局内容の理解が不十分になってしまいうことが多い。そこで、視点を変えて「一番驚いたことを見つける」という目的でもう一度教科書を読ませたい。そのことで、語彙や文法を気にせずに内容を重視した読みができる。その後、驚いた理由を各自で考え、ペアで発表させる。おそらく生徒が驚いた箇所は「教育」「健康」「環境」「水」「貧富の差」「戦争」のどれかに分類されるはずである。テーマごとにグループに分かれて解決策をディスカッションさせる。白紙を1枚用意し、生徒は思いつくだけ解決法を書き、その後、グループのメンバーで協力し合って解決法を英語

に直させ、最終的にはクラス全体に発表させる。

4. Project について

Discussion を通して教科書の内容を深めた上で、さらに世界と日本を比較して発展的に学習していくのが Project である。ここでは2つ目の識字率を取り上げて活動例を紹介したい。識字率は英語よりもむしろ地理の学習内容の方が濃い。そこで、地理担当の先生にご協力を仰ぐのも一つかもしれない。用意するものは、World Illiteracy Map（できればカラーで）である。

①世界の非識字率について

教科書にある Literacy についての記述を見つけさせる。すると、世界の約15%が文字を読めないことが分かる。

②日本の非識字率について

World Illiteracy Map を見て、日本の非識字率を確認すると、10%以下だということが分かる。同じ色がついている地域を挙げさせると、非識字率が10%以下の地域はヨーロッパと東アジアと北アメリカだということが分かる。

③他国の非識字率について

非識字率が50%以上の国、30%～49%の国、10%～29%の国をそれぞれ具体的に挙げさせる。非識字率が高い国はアフリカや南アジア、南アメリカにあるということが分かる。

④原因を考える。

国（地域）によって、識字率に違いがあるのはなぜだろうか。それを考えて発表させる。

(参考資料：[Map of the World])

<http://www.mapsofworld.com/thematic-maps/world-illiteracy-map.htm>

*

本教科書はどの課においても発展的で内容を重視した活動が組み込まれている。確かに準備には多少時間がかかるかもしれないが、その分、語彙や文法の習得にとどまらない「英語を通した学習」が期待できるだろう。

(せき まりこ・新潟県立国際情報高等学校教諭)